

2022 年度 14 ブロック大会時の運営について（暫定版）

2022 年度は、従来通り以下の 8 大会を予定していますが、コロナウイルスの感染拡大が終息しない状況を受け、昨年度同様の運営基準を設けての実施といたします。また、コロナウイルスの流行状況によっては無観客開催や中止の判断をする場合もあります。

- U12 リーグ戦（前期：4/16～6/26、後期：9/3～12/24 予定）
- フェアプレーカップ 14 ブロック予選（4/29～5/21 予定）
- 3 年生交流大会：（5/28～6/26 予定）
- JA 東京カップ 14 ブロック予選（7/2～10/30 予定）
- 全日本予選：（9/17～10/23 予定）
- TOMAS3 年生交流大会 14 ブロック予選：（11/19～12/25 予定）
- 4 年生交流大会：（1/7～1/29 予定）
- 5 年生交流大会：（2/4～2/26 予定）

開催に際して、14 ブロックとしてもコロナウイルス感染拡大防止への取り組みが必要と考え、ブロック大会開催時の運用基準を以下に定めました。大会に参加するチームは、内容を十分にご理解いただき、選手・スタッフ・保護者が安全・安心にサッカーを楽しめる様、ご協力をお願いします。

なお、大会には下記運営基準を十分に理解していただき、チームとしての感染防止対策を実施したうえで、チームの責任において参加してください。

2022 年度運営基準

■試合時間・会場

- ・各大会の試合時間は以下とする。ただし、状況によっては 15 分ハーフに変更する可能性があります。
20 分ハーフ（20-5-20）
U12 リーグ戦・全日本予選・JA 東京カップ 14 ブロック予選・5 年生交流大会
15 分ハーフ（15-5-15）
フェアプレーカップ 14 ブロック予選・3 年生交流大会・TOMAS3 年生交流大会 14 ブロック予選・4 年生交流大会
- ・1 会場（ピッチ 1 面）に集まるチーム数は最大 4 チームとする。
→2 面対応可能な会場は 8 チーム。
※（小川西、中央公園、桜が丘、経済産業省等）
- ・1 日使用会場で 3 チームリーグを 2 組開催する場合は、午前・午後で完全にチームの入れ替えが出来る様にスケジュールを組む。
→試合が終わったチームは迅速に退場、午後からのチームは入場時間厳守。

■会場の準備（本部運営チーム）

- ・本部に消毒液および手洗い用の場所を指定しハンドソープ等を用意する。（使用した筆記用具等は都度消毒すること）
- ・ビニール手袋を用意する（会場設営時等で使用）
- ・本部内でもソーシャルディスタンス（2m を目安）を確保する。
- ・各チームの荷物置き場を指定する。（小川西、中央公園、桜が丘、経産省も同様）
→距離を確保して、荷物置場でも密にならないようなスペースを確保する。また、可能な限り保護者の待機スペースも設定する。（選手・スタッフとの離隔）
- ・各市のグラウンド使用時の密防止策

→小川西・中央公園・桜が丘・経済産業省で2面使用での試合では、2面の使用者が交差しない様にグラウンド内での動線を分離する対応を行う。

■来場者の確認

- メンバー表の提出と併せて、選手・スタッフ・観戦保護者、全ての来場者が記載された「来場者名簿」のみ提出する。TFA 共通書式の「健康チェックシート」は各チームにおいて記録・管理のもと保管のこと。→※但し、感染者が発生した場合は、「来場者名簿」に記録した情報をTFA 共通書式「健康チェックシート」に記載して連盟に提出することになるため、来場者名簿記載の記録内容は試合当日から1か月間保管のこと。
試合当日および前日に発熱（37.5℃以上）のあった選手・スタッフ・保護者は会場に入場できない。なお、試合前2週間のうちの発熱についてはチームの判断による。
→「健康チェックシート」の提出を行った場合はメンバー表と一緒に試合後に返却する。「来場者名簿」は大会報告書と併せて本部運営チームが保管する
返却された「健康チェックシート」は1か月間チームで保管すること。罹患者がした場合に必要な応じて提出を求めることがあります。
- 観戦者は選手1名に対して1名まで（対象は保護者のみで小学生以下の子供は不可）とする。
→「来場者名簿」で人数の確認を行う。
- グラウンド到着時の選手による本部挨拶は不要（しない）とする。

■チーム準備

- 自チームで使用する消毒液は持参する。
- 審判フラッグを持参する。
- 車での来場の場合、乗車人数に配慮する。（方法はチームに一任）
- 熱中症予防等で、ベンチでテントが必要な場合、参加チームもベンチ用にテントを持参する。

■試合前

- 背番号確認は試合開始直前の実施として、確認が済んだ選手からピッチ入場する。
→ピッチ入場時は手指消毒を実施する。（選手は自チームで対応、審判は本部の消毒液を使用）
- 試合開始前の挨拶は省略する。
→選手は、背番号確認後に手指消毒をしたら、そのままポジションにつく。

■試合中のベンチ

- ベンチ入り指導者は2以上3人以下とする。
- ベンチ内では指導者はマスク着用、選手は不要とする。
- ベンチ内ではソーシャルディスタンス（2mを目安）を確保する。
ベンチ内では、指導者と選手の待機場所は極力分離する。（着席の場所を離す、テントが必要な場合、参加チームの持参するテントを設置して離れて着席する）
※医療スタッフはベンチの後方に待機できる。
→密な状況が確認できた場合は、本部から注意を促す。
- 途中出場選手もピッチ入場前に手指消毒を実施する。

■試合後

- 試合終了後の挨拶は実施するが、握手は行わず選手間の距離を取る様に審判が指示する。
- 試合終了後のベンチ挨拶は省略する。
- 各チームは、選手に手洗い・うがいを指導する。

■その他

- 観戦者もソーシャルディスタンス（2mを目安）に十分配慮する。自チームの待機場所（選手の荷物置き場）への立ち入りは、原則禁止とする。（大会参加者への接触自粛）
- 観戦者の声を出しての応援は禁止する。
- 試合会場への来場者（選手、スタッフ、保護者）に感染者が確認された場合、速やかに各市運営委員に報

告する。(チーム名、学年 or 指導者・保護者)

- ・ チーム内に感染者が出た場合の対応は東京都の指示による。

以上